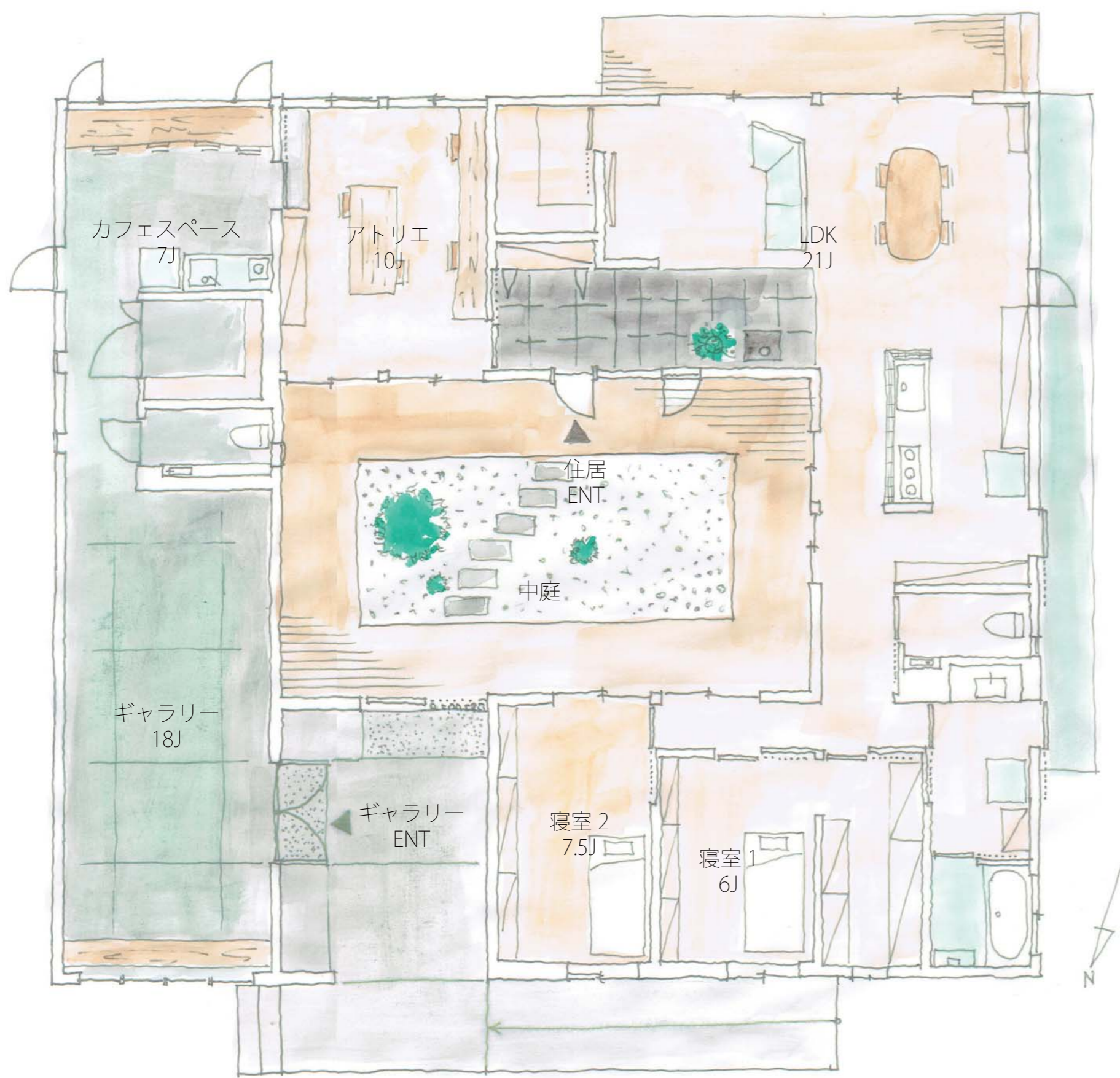
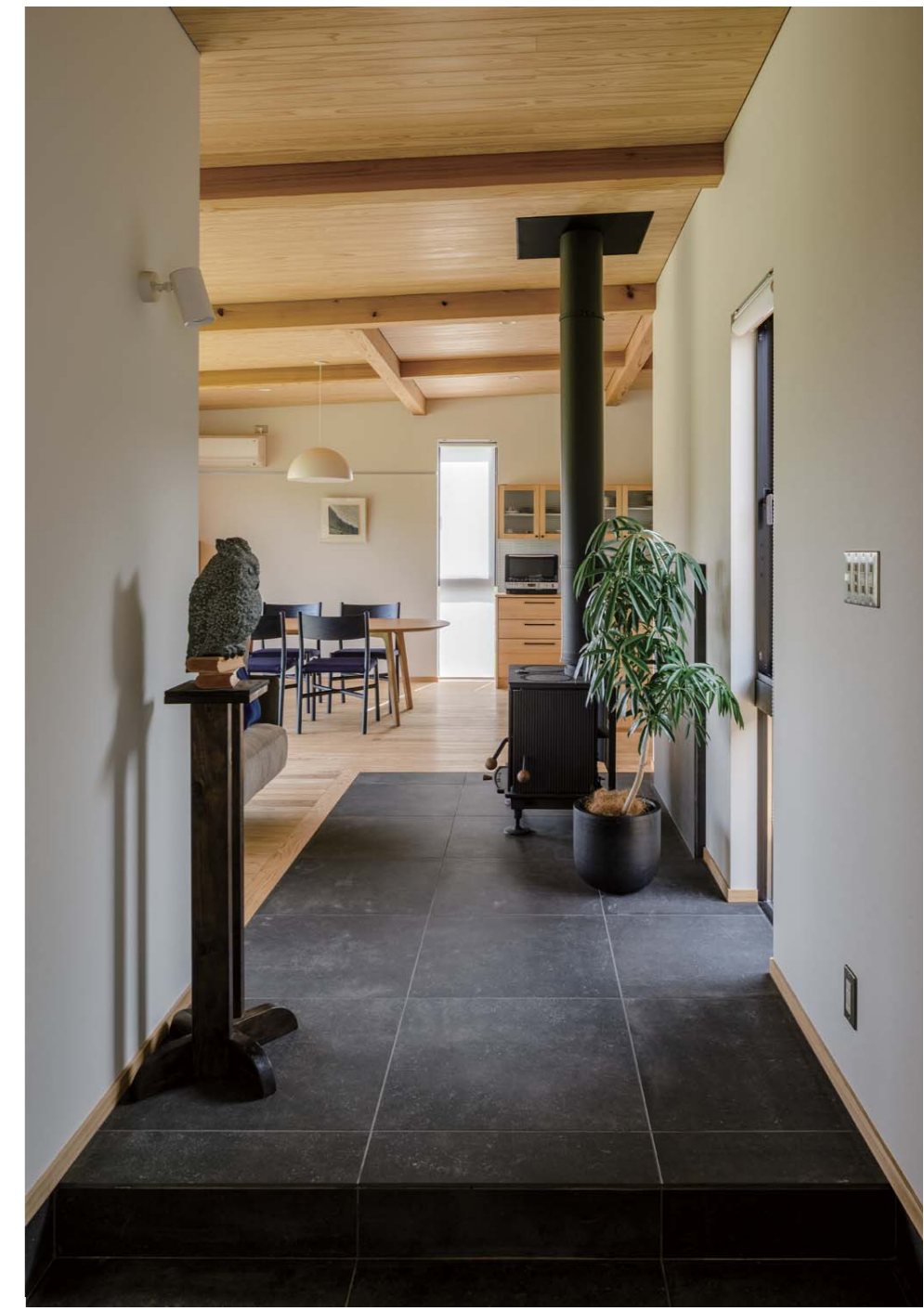


# ART SPACE 布布

TSD+高橋建築構造設計室



延床面積 172.23㎡ (52.00坪)

outside

屋根 ガルバリウム鋼板

外壁 焼杉

軒天・破風板 杉板※

inside

床 杉無垢フローリング※、タイル、モルタル金縷

壁 珪藻土クロス、クレイペイント

天井 珪藻土クロス、杉板※

※地域材使用箇所



## ■プランについて アトリエと中庭の役割

ギャラリーという不特定多数の人が訪れる場所とプライベートな住宅を併設するため、プラン検討には多くの時間がかかりました。分棟形式なども候補に挙がったうえで、最終的に中庭を囲みギャラリーと住宅の間にアトリエを配置した口の字型のプランとなりました。このプランの良いところは、オーナーは建物全体を不便なく行き来でき、セキュリティはアトリエと中庭だけ締めれば簡単に確保できるという点です。間にアトリエがあることでパブリックからプライベートに切り替わる干渉スペースの役割を果たしてくれます。また、中庭は完全に閉鎖されず、格子戸で仕切られているため、訪れた人も何となく家全体の雰囲気を感じることが出来ます。広い平屋の家において十分な通気や採光を確保する役割も果たしてくれます。

## ■地域材の使用について

構造材に100%地域材を使用しています。高さや広さを抑え、無理のない構造計画とすることでコストを抑えつつ、どこか遠いところから持ってくる必要のない特別な材料ではなく、地域材で十分に成立する架構とすることが重要と考えています。仕上げ材には、メインの床仕上げに地域材の杉板フローリング、天井や軒天にも地域材を使用しています。また、施工自ら足を運び地元の材木店から購入した無垢のカウンター材や外壁の焼杉など、こだわりの木材をふんだんに採用しています。地域材を使用する際には、他の仕上げ材（木部に限らず）も地域材と相性の良いものを選定する必要があります。ビニルクロスやメラミン・ポリのカウンター、建具ではなく、珪藻土クロス、自然素材のペイント、無垢材のカウンターや建具を採用しました。また、土間に真鍮目地を入れたり、一部を洗い出しにしたりする事で、素朴な雰囲気損なわず、木を使った家の雰囲気合うアクセントを取り入れました。施工との対話の中から生まれてきたこれらのアイデアは、自然と地域材との相性の良いものでした。地域材を使用するうえで最も大切なのは、施工と設計者が地域材使用に対して関心や価値観をひとつとして自然な形と同じゴールに向かって進んでいくことだと感じました。